

函館市南茅部縄文遺跡群整備構想

未来をひらく縄文文化交流の道



平成18年 3月
函館市教育委員会

目 次

1	現状と背景・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	整備の目的・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3	南茅部縄文遺跡群の特徴・・・・・・・・	3
	〔史跡大船遺跡〕	
	〔垣ノ島遺跡〕	
4	整備の基本方針・・・・・・・・・・・・・	4
	(1) 施設整備の方向	
	(2) ソフト事業の展開	
	(3) 事業効果	
	(4) 整備イメージ	
5	管理・運営の方針・・・・・・・・・・・・・	12
6	整備スケジュール・・・・・・・・・・・・・	12
	〈参考資料〉	
	遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・	13

1 現状と背景

函館市は、平成16年12月に近隣の戸井町、恵山町、榎法華村および南茅部町と合併したことにより、多くの縄文遺跡を有することとなりました。

特に南茅部地域は、水産資源の豊富な海と緑豊かな山々など、多様な自然環境に恵まれていることから狩猟採集を基盤とした縄文文化が栄え、現在、太平洋に面した海岸段丘上に多くの遺跡を有しています。それらは南茅部縄文遺跡群と呼ばれ、発掘調査による出土品は400万点を超え、中には、重要文化財「中空土偶」や専門集団の存在を示唆するアスファルト塊など、我が国の歴史と文化を語るうえで貴重な考古資料も数多く発見されています。

このことから、南茅部地域は、合併建設計画の地域別ビジョンにおいて、縄文文化の発信拠点の役割を果たす地域と位置づけられ、主要施策の一つとして、縄文遺跡群の発掘調査を進めるとともに、重要文化財「中空土偶」などの出土品の保存展示施設や遺跡公園を整備することなどにより、古代のロマンを秘めた歴史文化の情報を発信し、道内と北東北地域との北の縄文文化回廊をテーマとした文化交流を促進することとしています。

南茅部縄文遺跡群には、史跡大船遺跡と垣ノ島遺跡の二つの代表的な遺跡があり、大船遺跡は、大型竪穴住居群をもつ大規模な集落跡として平成13年度に国史跡に指定され、現在、有効活用を図るための復元整備に取り組んでいます。また、垣ノ島遺跡は、平成11年度から始めた調査によって世界最古の漆製品や国内最大級の馬蹄形盛土が発掘されるなど、今後も、さらなる歴史的発見が期待される極めて重要な遺跡であることから、保存・整備に向けた検討を行っています。

南茅部地域では、こうした地域の大切な文化遺産である縄文遺跡群の普及と活用を図るため、平成10年度から「北の縄文クラブ」が民間団体として活動を始め、縄文土器づくり大会などのイベントや各種体験講座を開催するほか、青森市や伊達市などの関係団体との交流活動を進めています。また、平成12年度には大船遺跡速報展示室（現函館市大船遺跡埋蔵文化財展示館）を開設するとともに、平成17年度には「特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化財事業団」が発足し、遺跡の調査・研究や縄文フォーラムを実施するなど、縄文遺跡を活用したまちづくりに向けて、地域が一体となった活動を展開しています。

こうしたなか、平成15年9月の北海道・北東北道県知事サミットにおいて、北海道と北東北地域の縄文遺跡を連携させた「北の縄文文化回廊づくり」が合意され、各地域の縄文遺跡を活用した広域的な地域間交流による地域振興が図られることになり、南茅部縄文遺跡群は北海道の拠点として位置づけられています。また一方で、自然と共に生き、生命を尊んだ縄文文化への市民の関心は高まっており、函館市大船遺跡埋蔵文化財展示館には、毎年約1万人の利用者が訪れる状況が続いています。

本構想は、こうした背景を十分に踏まえ、南茅部縄文遺跡群を活用して生涯学習の一層の推進を図るとともに、産業や観光の振興と連動した魅力ある地域づくりにつなげていくため、今後の整備の指針として策定するものです。

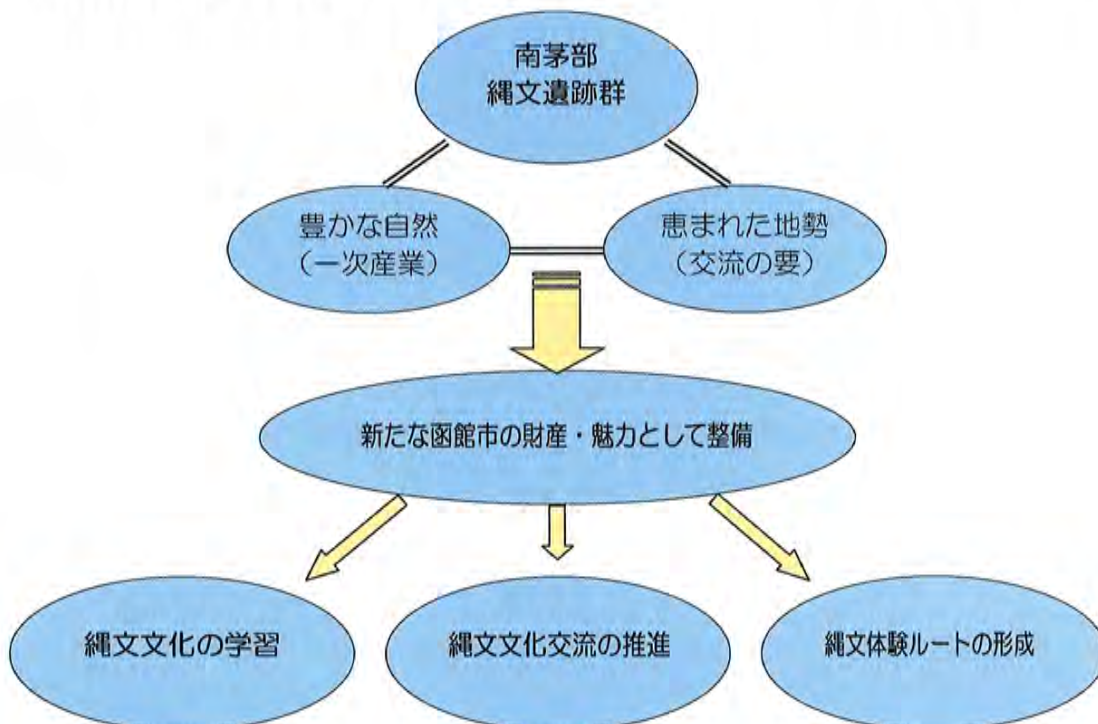
2 整備の目的

北海道の厳しい自然環境のなかにあつて、比較的温暖な海洋性気候にある本市においては、食料となる豊かな水産資源や交流の要となる地勢に恵まれ、はるか数千年前から縄文文化が栄えていました。また、縄文時代においては、亀田半島全域が同一の文化圏であつただけでなく、本州産のヒスイの装飾品やアスファルト塊が数多く出土していることから、津軽海峡を越えて北東北地域との交流も盛んに行われていたと考えられています。

この恵まれた自然環境は、現在の水産業に代表される地域の一次産業を支える資源として私たちに引き継がれ、さらに、活発に行われた人的・物的交流は、歴史とともに積み重ねられ、今日の経済基盤や未来の函館を形づくる源となっています。

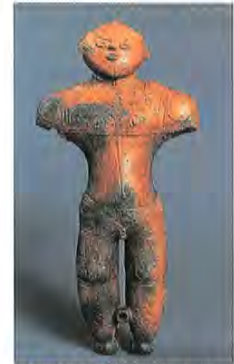
こうした地域の歴史を学び、次代に引き継いでいくため、南茅部縄文遺跡群の保存・活用に努めるとともに、縄文時代から続く交流の歴史を市民共有の財産として活かす事業展開を行うことにより、個性豊かな地域づくりに寄与するほか、合併後の函館市に共通する縄文文化の情報発信と交流促進に向けた拠点づくりを進め、一体性の速やかな確立を図るものです。

- 縄文時代から、高度な文化が栄えていたという歴史認識を共有するとともに、縄文文化を学ぶ機会を高めることにより、市民のアイデンティティの確立に努め、郷土を想う心を育むことをめざします。
- 縄文時代から、広域の文化圏を形成し、当時から地域間の交流が盛んであつたことを踏まえ、「北の縄文文化回廊づくり」と連携し、縄文文化交流をテーマとした地域間交流や異文化交流など、様々な交流活動の一層の推進を図ります。
- 縄文文化を通して地域の自然環境や一次産業に光を当て、遺跡や出土品を活かした魅力ある生涯学習の機会を創出し、広域的な縄文体験ルートの形成をめざすとともに、水産業や観光など、地域産業の振興に努めます。



3 南茅部縄文遺跡群の特徴

南茅部縄文遺跡群は、太平洋に面した海岸段丘上に連なる90カ所の遺跡からなり、縄文時代早期から晩期に至る全期間を通して大規模な集落跡が多く、重要文化財「中空土偶」を始めとする極めて貴重な考古資料が出土していることなどが特徴です。特に、史跡大船遺跡と垣ノ島遺跡は、縄文時代を象徴する遺跡として位置づけられ、これらの遺跡は内容や自然条件に違いがあるため、より有効な活用に向けてそれぞれのもつ特徴を活かした魅力ある整備が必要です。



重要文化財 中空土偶

〔史跡大船遺跡〕

史跡大船遺跡は、大船川の左岸に位置する縄文時代中期（約4,500年前）の集落跡で、平成8年度の発掘調査によって、深さ2mを超える大型の竪穴住居跡などが発掘されました。その後、保存に向けた発掘調査を実施し、平成13年度に面積約7.2haが国史跡に指定されました。

集落が栄えた時期は、円筒土器文化圏と呼ばれる大きな文化圏が津軽海峡を挟んだ北東北地域と道南地域に広がり、両者は活発に交流していたことが知られています。また、クジラやマグロの骨、オットセイの牙など、海に囲まれた南茅部らしい動植物が数多く出土し、海の恵みに支えられ安定した生活を営んでいた様子を知ることができる遺跡です。



大型の竪穴住居跡



クジラの骨



マグロとオットセイの牙

〔垣ノ島遺跡〕

垣ノ島遺跡は、垣ノ島川の左岸に位置する縄文時代早期から晩期（約6,500～2,800年前）の遺跡で、20haを超える広大な面積を有し、南茅部縄文遺跡群の中核に位置づけられています。

平成12年度の発掘調査で、子どもの足形を押した足形付土版や朱漆塗注口土器など、縄文時代の高い精神性や豊かな芸術性がうかがえる資料が出土したほか、平成15年度には長さ100mを超える国内最大級の馬蹄形盛土遺構が発見され、大きな注目を集めました。

また、垣ノ島川の右岸には早期の垣ノ島B遺跡があり、墓から世界最古（約9,000年前）の漆製品が出土するなど、垣ノ島地区全体に、優れた縄文文化を知ることができる重要な遺跡が広がっています。



縄文時代後期の住居跡



足形付土版



朱漆塗注口土器

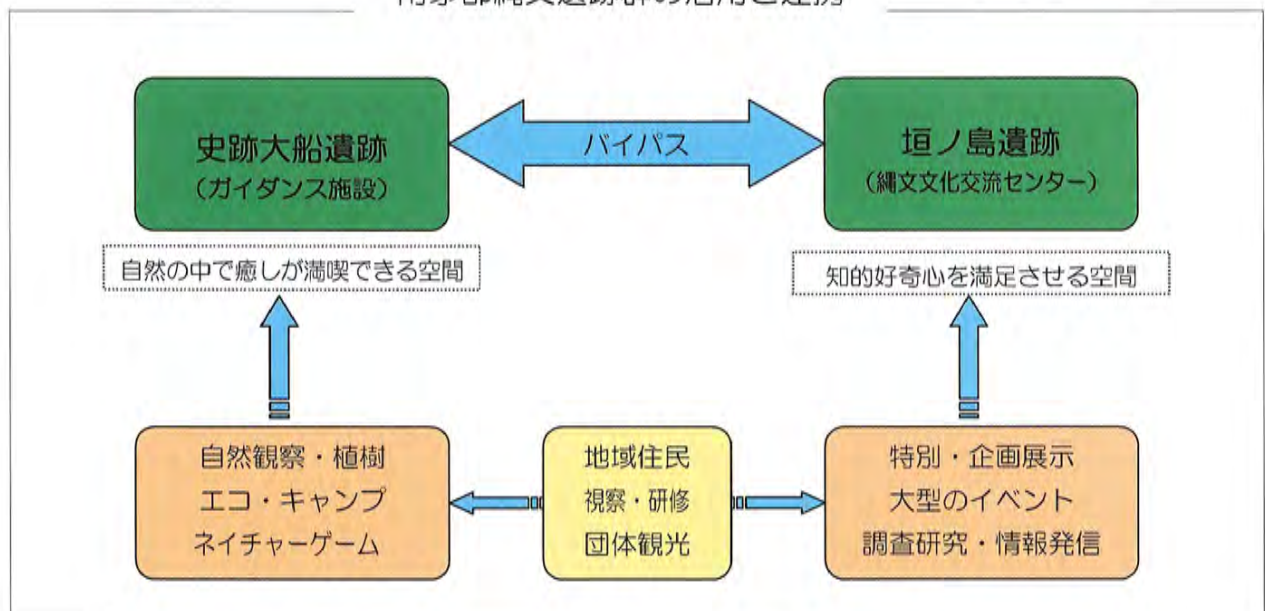
4 整備の基本方針

(1) 施設整備の方向

南茅部縄文遺跡群の整備にあたっては、史跡大船遺跡と垣ノ島遺跡の位置づけや機能を次のとおりとし、それぞれの遺跡の持つ特徴を活かした遺跡公園として整備し、連携を図ります。

遺跡	史跡大船遺跡	垣ノ島遺跡
位置づけ	恵まれた自然を活かした 縄文体験・環境学習の場	中核的な遺跡の役割を担う 縄文文化交流・観光の拠点
機能	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察や縄文体験を实践 ・学校等の各種研修に対応 ・自然と人との関わりをテーマとした学習の場 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要遺物を公開・展示 ・大型観光の誘致 ・各種イベントの開催 ・調査・研究の充実（NPOと連携）
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・竪穴住居等の復元 ・散策路の整備（自然観察に活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・馬蹄形盛土、各時代の集落跡復元 ・縄文広場の整備（イベントに活用） ・大型駐車場、公園等の外構の整備
施設	ガイダンス施設 <ul style="list-style-type: none"> ・展示室（大船遺跡の出土品） ・ガイダンス （テーマ：大船遺跡の自然と生活） ・売店（特産品） ・休憩室（見学者等） 	縄文文化交流センター <ul style="list-style-type: none"> ・特別展示室 （重要文化財「中空土偶」等） ・常設展示室 （縄文に関する展示・研究） ・多目的室 （体験学習・レクチャー・視聴覚機能） ・ミュージアムショップ・カフェ ・事務室（NPO・ボランティア共有）

南茅部縄文遺跡群の活用と連携



(2) ソフト事業の展開

① 縄文文化の学習

○ 縄文体験講座の展開

縄文土器づくりやシカ角釣針づくりなど、様々な縄文体験講座を通じて、縄文時代の技術や精神性を伝えるとともに、地域の貴重な歴史的財産である縄文文化の学習と普及を図ります。



シカ角釣針づくり



縄文土器づくり体験

○ 市民参加の推進

縄文遺跡を活用した地域づくりにおいて、最も大切なことは、縄文文化を地域の財産として捉え、自らが、普及活動などの市民活動に積極的に参加しようとする意識と力を育むこと（キャパシティ・ビルディング）です。

そのため、ボランティア組織の育成を行い、遺跡ガイドや普及活動において、多くの市民や児童・生徒が参加できる環境づくりを推進し、見学者に対するホスピタリティの充実を図ります。



ボランティア・ワークショップ

② 縄文文化交流の推進

○ 民間団体の交流を促進

道内外においては、地元の縄文遺跡を守り、普及を図っている民間団体があり、縄文文化を活用した地域づくりの基礎となる活動を行っています。

特に、南茅部地域の「北の縄文クラブ」は、青森県の三内丸山応援隊など、北東北3県の民間団体と連携を深め、共通のイベント等を開催していることから、今後も、民間レベルの交流活動を一層促進させるとともに、地域に根ざした、縄文文化交流を促進させます。



三内丸山応援隊との交流

○北の縄文文化回廊づくりとの連携

平成15年9月に開催された北海道・北東北道県知事サミットにおいて、この地域を「北の縄文文化回廊」として内外に広くアピールしていくことが合意されました。

これは、縄文文化の価値を地域の財産として見直し、地域間交流や情報発信を行いながら魅力ある地域づくりを推進するとともに、世界遺産の登録も視野に入れたプログラムで、サミットに向けて北海道知事が南茅部縄文遺跡群を視察し、地元の関係者や民間団体と意見交換を行いました。

縄文遺跡群の活用にあたっては、こうした広域プロジェクトとの連携を図りながら、交流活動を一層推進します。

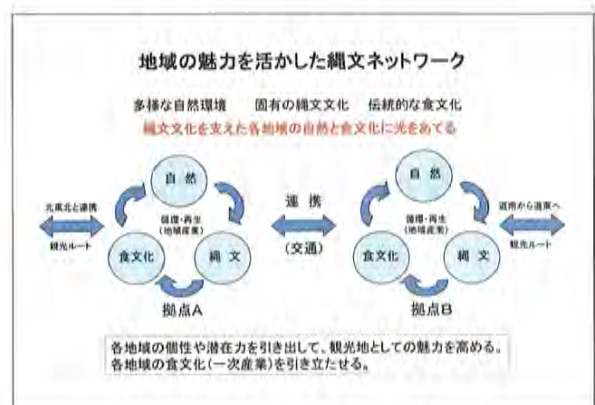


③縄文体験ルートの形成

○縄文ネットワークの形成

ヒスイやアスファルト塊、黒曜石など、縄文時代の人々が交易を行った道、いわゆる「縄文の道」を、現代の私たちが追体験するため、新たな縄文体験ルートを創出します。

また、地域資源の保全・改善に取り組むことにより、美しい景観づくり、活力ある地域づくりを図る「シーニック・バイウェイ」構想により、道路沿いに広がる自然、歴史、考古資料などの地域の資源を活用するとともに、自然に育まれた縄文文化をキーワードとして、地域の自然環境と食文化を連携させた個性豊かな地域づくりを推進します。また、これらの地域がネットワークを組むことによって、観光ルートとしての魅力を高めます。



- ・ 亀田半島ルート：縄文から続縄文へ（函館空港遺跡群，戸井貝塚，恵山貝塚）
- ・ 噴火湾ルート：国史跡等の縄文遺跡群（南茅部縄文遺跡群，森町鷺ノ木5遺跡，伊達市北黄金貝塚）
- ・ 津軽海峡ルート：渡島半島と北東北地域に広がる円筒土器文化圏（特別史跡三内丸山遺跡）

(3) 事業効果

○教育的な効果

各種縄文体験講座や自然観察などの環境学習を通じ、今世紀の社会が求めている循環・再生の精神を学ぶとともに、地域の基盤となるいきいきとしたコミュニティの形成を醸成し、次代につながる生涯学習の推進を図ることができます。

各種縄文体験講座や自然観察などのソフト事業の展開



遺跡周辺の自然観察



体験発掘

期待される効果

- ・最新の発掘調査成果による、地域の歴史・文化の学習を促進し、郷土を想う心を育むこと。
- ・自然と共生した縄文文化に触れて、自然や生命を大切にする心を醸成すること。
- ・縄文時代の精神文化を学び、多様な価値観を知ること。
- ・縄文体験講座を通じ、縄作りなど、現代に伝わる技術を地域の老人から学ぶなど、世代を超えた交流活動を図ること。

○経済的な効果

南茅部縄文遺跡群を有効に整備・活用することは、函館の新たな観光資源を創出することにつながります。また、フォーラムの開催やコンベンション誘致による経済効果、さらに史跡整備や発掘調査による地域経済への波及効果は大きいものと考えられます。

史跡整備等のハード事業、およびイベント、発掘調査、PR等のソフト事業の展開



研修旅行



発掘調査

期待される効果

- ・史跡の整備や出土品の展示により、地域の魅力を高め、新たな観光ルートの創出に寄与すること。
- ・フォーラムの開催、コンベンション誘致により経済効果を高めること。
- ・発掘調査の成果、イベント情報等を発信し、PR効果を高めること。
- ・発掘調査の継続による、地域の雇用促進や商工業活性化などに寄与すること。

(4) 整備イメージ

〔史跡大船遺跡〕

恵まれた自然環境の中で時空を超えた癒しが満喫できる空間



a. 復元ゾーン

竪穴住居の復元

大船遺跡の竪穴住居跡は、規模が大きく、深さが約2m以上もあります。この竪穴住居跡を保存処理して公開するとともに、完全に復元した竪穴住居も数棟展示します。



竪穴住居の復元を体験

参加者みんなで実際に木を組み、縄文時代の竪穴住居の復元を体験します。



縄文のくらし体験

縄文土器や石器の製作、縄文食の調理体験など、当時のくらしを楽しく体感できるプログラムを編成します。



b. 自然観察ゾーン

サケ遡上見学

縄文人は、クジラや魚を捕るなどして、海や川の恩恵を受けていました。現在でも、サケや昆布は南茅部の代表的な産物であり、秋には、大船川でサケの遡上を見ることができます。



縄文の森散策

大船遺跡に接して広がる縄文の森を散策し、植物や川の生物を観察しながら、縄文時代の自然に触れてもらいます。



植林・植栽

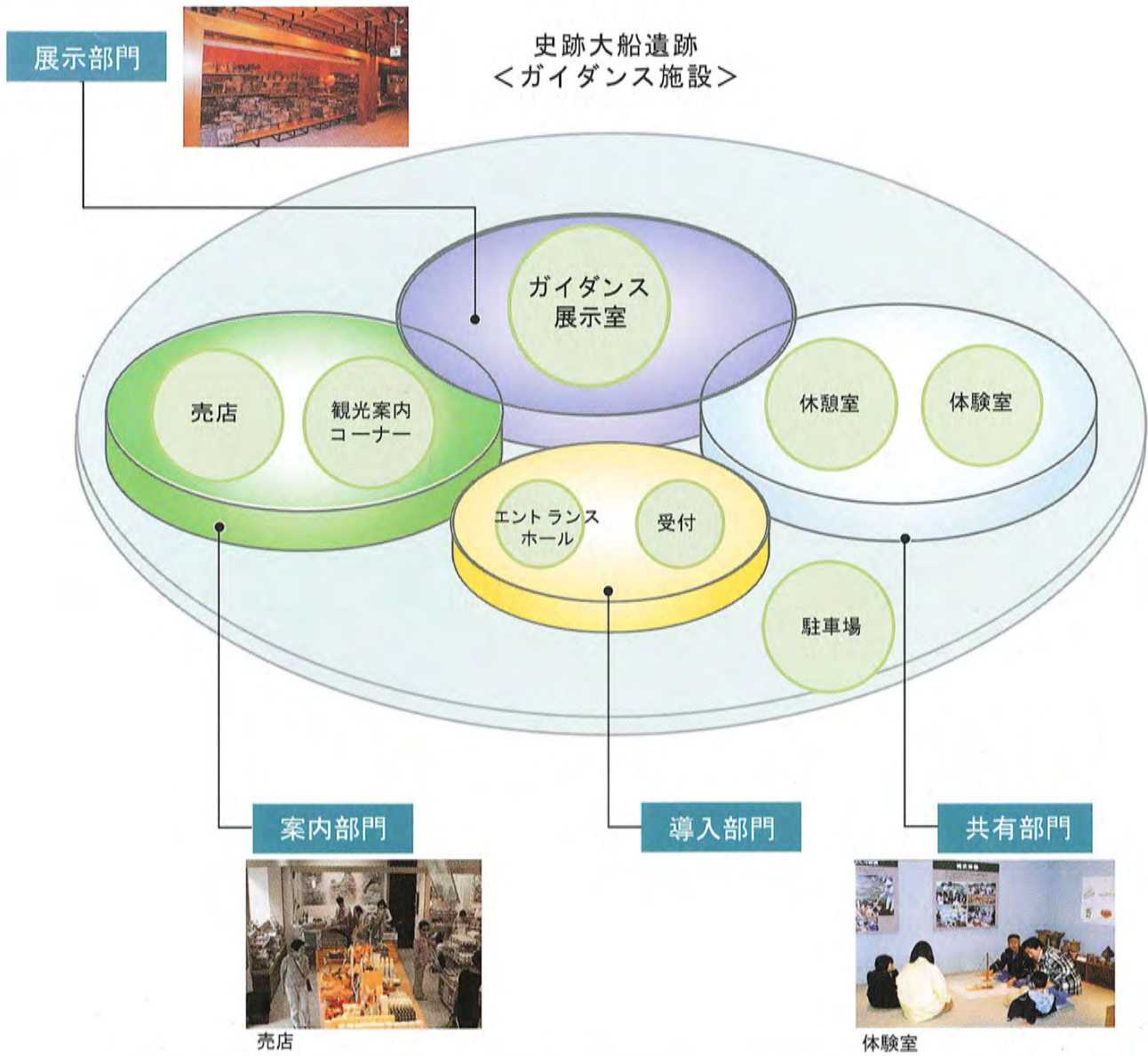
クリやニワトコなど、森の植物は、縄文の人々にとって重要な食料であり生活の道具でした。市民の参加による植栽を行い、縄文の森を復元します。



c. ガイダンス施設

環境学習をより深めるために、自然と人との関わりをテーマにしたガイダンス施設を整えます。また、地域の特産品を紹介するコーナーも設置します。





函館市大船遺跡埋蔵文化財展示館

[垣ノ島遺跡]

縄文文化交流の拠点として新たな発見と知的好奇心を満足させる空間



a. 馬蹄形盛土ゾーン

高さ約2m、幅約15mの盛土が、縦横約100mに広がる国内最大の馬蹄形盛土遺構を調査し、その断面の一部を公開します。土器や石器など当時の道具が祈りとともに廃棄された状況がわかります。



b. イベント広場

屋外の空間を利用して、様々なイベントを開催します。縄文土器づくりや縄文祭りなど、観光客も含め多くの人々が楽しめる催しを実施します。



c. 集落・墓域復元ゾーン

垣ノ島遺跡では、縄文時代早期から後期に至る、様々な時期の住居や墓が確認されています。こうした集落の様子を復元し、よりリアルな縄文の世界を表現します。

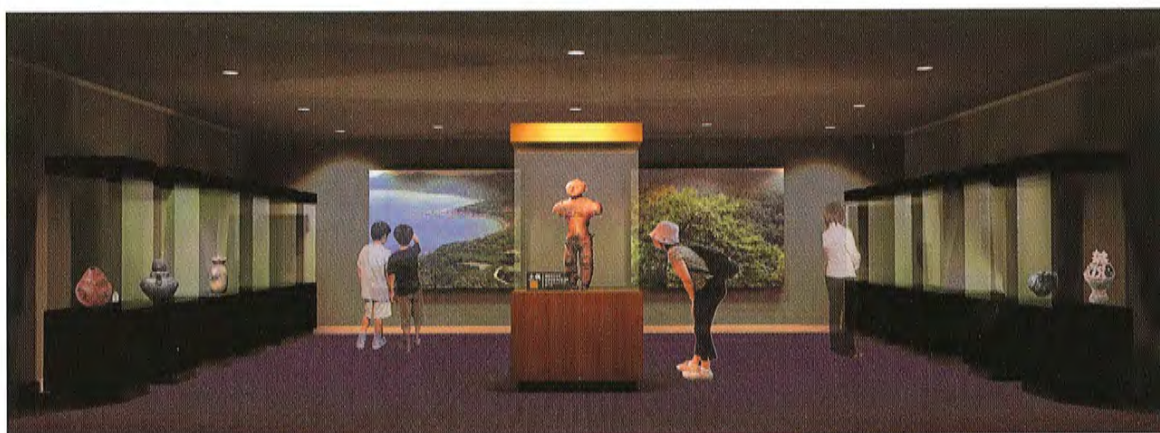
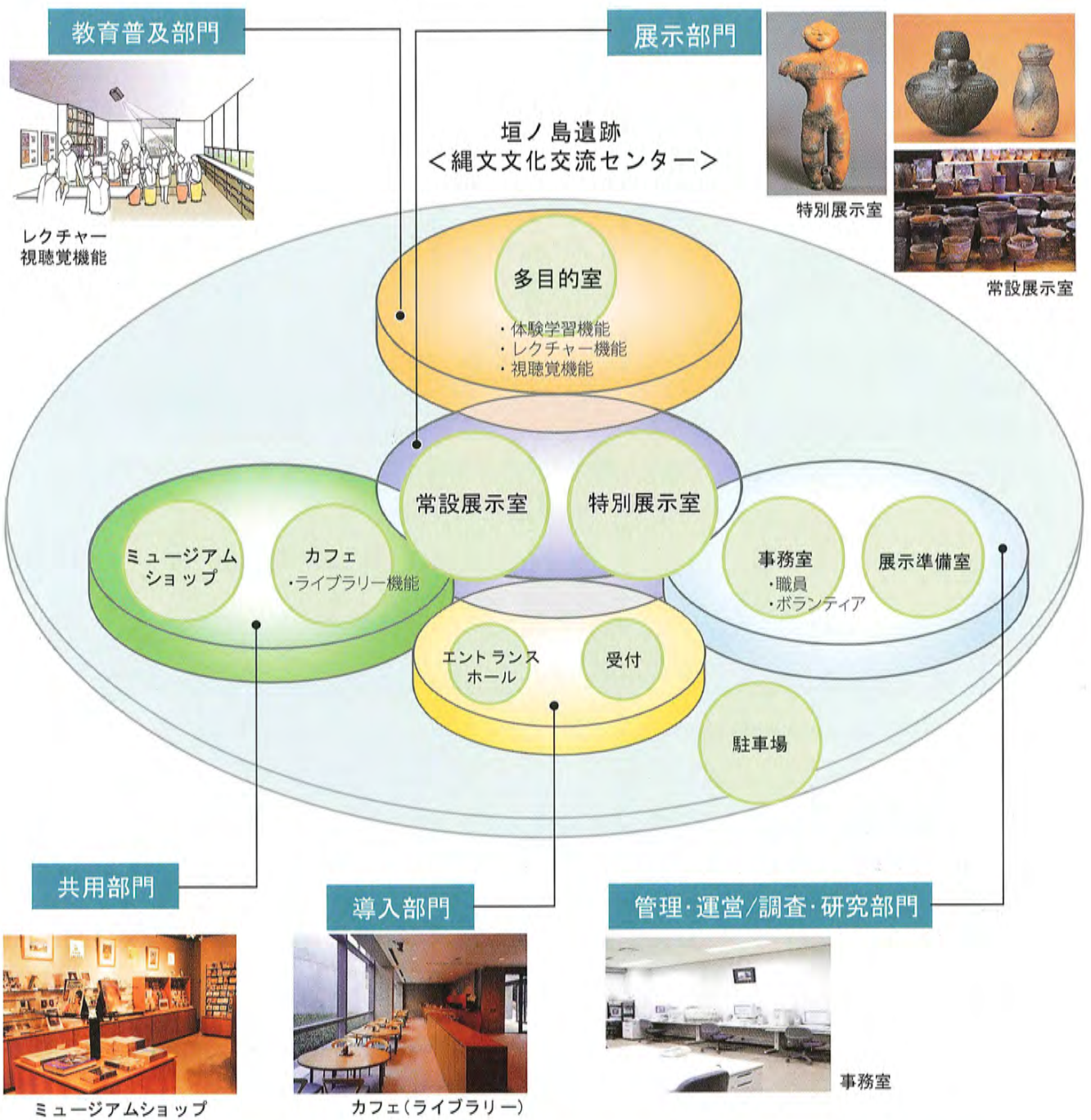


d. 縄文文化交流センター



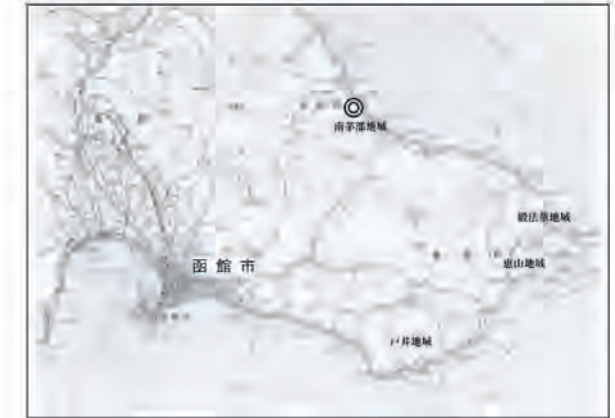
南茅部縄文遺跡群のコア施設として、展示施設や気軽に楽しめる縄文シアターなどのアミューズメント機能を充実させるとともに、調査研究室などの専門的な機能をもつセンター的な役割を果たす施設として整備します。

- ・重要文化財である中空土偶をはじめ、貴重な出土品を公開するのにふさわしい展示室を整備します。
- ・体験学習室やレクチャールーム、縄文シアターなどに利用できる多目的室を整備します。
- ・調査・研究や運営に関わるNPOやボランティアスタッフが常駐する事務室を設置します。
- ・訪れる人々が休憩に利用できるカフェ、縄文文化に関するミュージアムショップを設置します。
- ・団体客にも対応できる大型駐車場を整備します。



特別展示室のイメージ

遺跡位置図



史跡 大船遺跡

垣ノ島遺跡

著保内野遺跡

一般国道 278 号バイパス

凡例

- 供用区間
- - - 未供用区間 (用地補償・工事中)
- - - - 未供用区間 (未測量)

(平成18年3月現在)



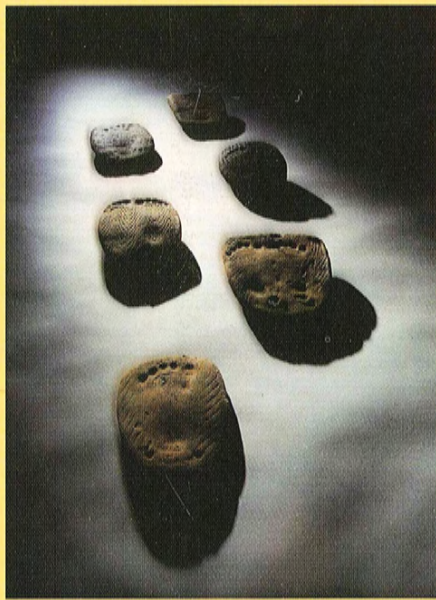
函館市南茅部縄文遺跡群整備構想

発行 / 平成18年3月

編集 / 函館市教育委員会生涯学習部

〒040-8688 北海道函館市東雲町4番13号

Phone.0138-21-3472 / Fax. 0138-27-7217



Faint, illegible text or markings, possibly bleed-through from the reverse side of the page.
